

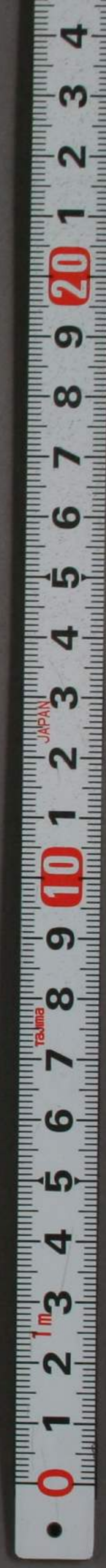


里見八犬傳

第四輯

卷一

3416
16
13



八犬傳第四輯

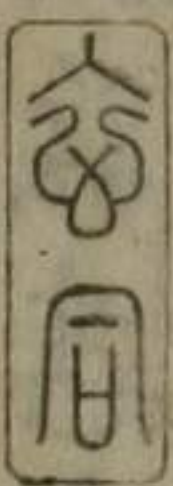
曲亭馬琴著

山青堂嗣梓



柳川重信画

八犬傳第四集叙



狗之守夜也性矣敬主熾主也亦性矣該
 曰。跽狗吠堯此非其狗之罪臣子之於亂
 朝善守其職而無私者亦當若是何者殷
 三賢不忠於西伯然周不敢罪之故孔氏
 曰。君雖不君臣不可不以不臣父雖不父子
 不可不以不子蓋比干箕子等之謂歟由是

八犬傳第四集叙

山青堂藏

觀之其性所捷雖狗無以異人也。嗚乎與
夫食君之祿而令父母愁。夫妻相虐。兄弟
為讐。遠舊迎新。信々呀々。走利者。大有運
庭。宜國有賢相。則無姦佞之賓。家有良狗。
則無窺窬之客。於是四鄰可不勉而衛比。
屋可高枕而睡也。是余之為八犬傳。所以
寤蒙昧。抑取義於茲。其書若干卷。既刊布

于世。頃又繼編。至於第四集。刊列之際。書
肆山青堂。屢來而徵序。甚急。每編有自序。
今不可辭。因附增數行。以塞禮云。
文政三年庚辰冬十月。端四書于著作堂。
西廂山茶花閣處。

飯台 曲亭蟬史



南總里見八犬傳第四輯目錄

第三十一回

水閣扁舟資兩雄
江村釣翁認雙狗

第三十二回

除二角旆
試二角旆
少年得號
修驗解爭

第三十三回

小文吾夜喪麻衣
現八郎遠求良藥

第三十四回

菜崎房八齋宿恨
藁塚犬田緩窮難

第三十五回

念二王戲借笛
妙真良返媳

第三十六回

破二忍犬田與山林戰
合二怨沼葡傷害四大

第三十七回

病客辭藥延齡
俠者殺身得仁

第三十八回

成二戶外一犬拉間者
返二徵書四彦辭來使

第三十九回

浮二一葉壯士送兩友
起二雲霧神靈奪小兒

第四十回

誣二額藏奸黨逞殘毒
射二羣小豪傑開法場

八犬傳第四輯目錄畢第二十回已上目錄見前集卷端

三卷 四卷 五卷

身體
有痣
玉面
無疵
英奇
蓋世
功名
共隨
守忍菴頭

大田小文吾
板扱均太
牛根孟六
塩濱
鹹四郎



尚義推類
遠刻思親
舊怒所解
殺身為仁

鷺齋老人

山林房八郎
修驗道觀得



南無阿弥陀佛



節婦如昨
其子捷親
信天翁

沼蘭

大八



蕭鳴夜笛
惟貞是烈
哀而不傷

芳流舍

大先達念玉

戸山妙真



魚目混玉
蕭艾奈蘭
雷水散人

簸上社平

新識帆大夫

八尋日年卷一

六

山青堂藏



命唯雖
薄下
神靈自
杖
琴嶺處士圖

古那屋全兵衛

八尋日年卷一

一犬當座嵐賊不能進矣
 犬半犬平勝於猫思似序
 乃波あ半満乃夜を毛は犬ハ
 猫ちあ良傳あ宅末乃久品伎
 秘あ英波婆可為

賴馬齋閑人狂題

南總里見八犬傳第四輯卷之一

東都 曲亭主人編次

第三十二回

水閣の扁舟西雄を資く
江村の釣翁雙狗と認る

いふ處の人のまゝ禍福の糾纏の如く人間萬彙往々塞翁が馬多々
 あり。その福の倚る所將禍の伏する所彼亦あまふ此亦あつ。と云ふ人も豫てより。
 誰うとくその極を知ん憐む。犬塚信乃の親の遺言紀の名刀心ふ占つ身よ
 傳の艱苦の中小年を経り得る死時を待つ。ふを極く詩我(齋)名を
 揚家を與むる。その福禍とゆかりたる村兩の刀の舊の物あり。僅か
 身を辟く雙言とをあり。憾とあふ小釋うもあふ。緯急り。意外あり。僅か
 當座の辱を避たる。小野の圍を殺関を。芳流閣の屋の上よ。

八犬傳四輯卷一

七 山崎堂藏

攀登まもも左右小脱去る死道のまひま其れ必死を究めたる公の中へいつたり
 けん想像さふの痛ま。されば又大飼見八信道へ犯せる罪のあまざり月来
 獄舎小敷れ禍へ今恩赦の福我が縛の索解人ゆをかる捕まの役後大塚
 信乃を擲めよと勅小擇出され他の憂を自の面目今更用ひまえん
 願しとてとて推辞と許さるもあぬ君命重く弥高死彼樓閣を
 三層へその二層ある檐の上まも身と霞せき登りて足下遠く雲近く
 照る日烈く堪えられ六月廿日そのふもけのも乾蒸の燄熱をこる敷尾へ
 凸凹隙ま波濤小似く下ま大河溜たるよの生死の海小朝る潮洄へ名小
 負ふ坂東太郎水際の小舟楫を絶て進退既小谷下。敵めあれつてこれ
 撃つ留んと艦の樹傳ふ如くさうくと登果る三層の屋背ま目紫翳よりも
 ち送小透を窺ひ疾視あつて立ち形勢浮圖の上る鶴の巢と巨蛇

の窺ふ小似さうけり。黄庭ま成氏朝臣横堀史在村小の老黨若黨圍繞せし
 床几小尻をうち掛て勝負怎生と向上る亦只閣の東西ま身甲ある許ま
 士卒鎗長刀を見えり。或ハ箭を員ひ弓杖突立組ど落るが移り留んとて項を
 反しとてを觀る加楯外面へ懸連とて杳ある河水遠ま砌を浸せ借使
 信乃武吏長替力衰へむと見ハ小捷得るとも墨氏が飛戈馬を借ま
 虚空を翔るべくもあぬ魯般が雲掠るが地上小下るべくもあぬ渠鳥
 果とてんえとをける當下信乃あひか。初層二層の屋の上ま追登れ
 とせし兵ホを破落しる後絶く近つめとるれ小今口ひより登来ぬる
 小のふちえある力士あるん這奴ハ是膳臣巴提便が虎を暴ぬる勇あ所欽又
 富田二郎が鹿角を裂く力ある欽速莫一個の敵引組ど刺送へ死ま小難死とて

わる。敵のつとをさし。目小おんせんと血刀を袴の稜り。推拭の高瀬の如く。
 方椋小立。儘小寄。俟見八も亦。彼大塚。武藝勇悍素。万夫無當の敵。然とも搦。他の援を借。わ六獄舎の中。この役。小
 擇出。甲斐も。搦捕るとも。勝負を一時決せん。の成。このひ。小
 け。此も擬。御説。呼。合。十。肉。飛。似。小。方。椋。の
 左。進。登。組。寄。つ。む。あ。う。う。と。鋭。大。刀。風。は。響。を
 幾石と受。宙。拂。透。さ。た。數。刀。尖。を。柱。流。を。上。下。一。二。三。の。躑。駐。て。頻。は
 進。捕。の。秘。術。彼。方。も。若。ぬ。手。煉。の。働。れ。山。及。り。か。と。大。刀。筋。を。わ。ら。こ。ち
 外。虚。實。の。ま。ど。勝負。を。判。じ。且。不。廣。庭。る。主。後。士。卒。は。小。汗。握。る。も。あ。く
 瞬。も。せ。氣。を。籠。こ。る。め。も。い。と。迫。る。と。小。犬。塚。信。乃。へ。侮。れ。見。八。が
 武。藝。小。敵。と。い。ふ。け。り。と。い。へ。勇氣。弥。倍。刀。尖。より。火。出。る。まで。寄。て。返。す。と。

大刀音被声。西虎深山小挑。と。然。と。風。度。の。二。龍。青。潭。小。戦。の。時。沛。然
 と。と。雲。起。る。も。か。く。ぞ。あ。れ。春。さ。る。が。峯。の。霞。秋。夏。さ。る。が。夕。の。虹。秋。と。る。可
 る。いと高閣の棟。死を争ひ。為。体。小。未。曾。有。の。暗。業。さ。る。見。八。を
 被。龍。の。餘。肱。當。の。端。を。裏。敲。や。そ。小。切。裂。衣。と。う。と。大。刀。を。抜。く。信。乃。の。刀。も
 續。で。初。小。浅。瘡。を。負。ひ。漸。々。小。疼。を。覚。れ。も。足。場。を。揃。え。攪。ま。る。と。思。登
 へ。み。く。撃。大。刀。を。見。八。右。も。受。る。が。か。ま。巻。ふ。つ。け。入。り。け。く。マ。ツ。と。被。る。声。と。共。小
 眉。間。を。望。く。礮。と。打。十。手。を。下。と。受。留。る。信。乃。が。刀。ハ。鏝。除。り。折。り。と。遙。小。飛
 失。せ。見。八。の。と。と。組。む。を。そ。隨。左。小。引。著。と。送。小。利。腕。楚。と。合。し。と。
 振。倒。さんと曳声合。接。つ。接。る。ち。ち。足。此。彼。齊。一。踏。に。河。邊。の。さ。滾
 滾。と。身。を。輾。せ。覆。車。の。采。苞。坂。より。落。と。小。異。形。と。高。低。險。れ。棧。閣。と。
 削。成。る。薨。の。勢。ひ。止。る。く。も。あ。れ。と。送。り。合。る。巻。を。緩。め。と。幾。十。尋。さ。る。

うち落も
鼓のこえや
桐一家
東岡舎
羅文句



かやうゆふ
なつて
刃のゆ
世の中ん
馬鹿
さける
釣く
信天翁
狂題



文五兵衛

天塚信乃



天飼見八

や。屋の上より末遙き河水の底へ入る程も。水際を繋ぎ小舟の中へ。累重の檣と落し、傾く船と立浪小波と音も水烟、纜丁と張射て射る。如死早河の真中へ吐出さる。小舟も追風と虚潮、小誘ふ水も。洄舟往方も。是首欬彼首欬と罵り程。閣中の番卒の窓より件の光景をよく認たり。躬く云云と報る。成氏等も且怒り且疑り。要時もあむ。みづから閣小進入り窓より。見ゆる小現頃日魚獵の為ゆ。外固小移せ。一艘の快船も。只張射る。纜の末に岸の杭小遺り。縛止る。横堀在村下。知を傳へ。俄頃小斬門を推開し。準備の快船四五艘小分配し。士卒を乗せ。みづもうち乗り。船を連ね楫を操り。船が似くは追蒐。今午の時程りぬ。三里が間ゆ。影もぬ。えも迹もぬ。認め。この河一條なる。

め。切小他領へ入り。人をつかみ。權威小許る。在村も。今更早。施を死計。死を移し。士卒を罵り。其処より。船を返り。成氏小中。信乃見八が。船を追。肉傷れ。骨摧け。死。疲労く。積高閣の棟。組る。儘小落。武藏の江戸。芝濱。或も水戸。行徳の浦。小出。其処より。南へ安房上総北へ。武藏の江戸。芝濱。或も水戸。浦。銚子口。半の御方。の地。ゆ。あ。小便り。再び士卒を遣。水陸共。穿。成氏。領。小。再。信乃。存命。計。畧。縛。便。小。捕。せ。在。村。果。

處へ退却す。本藩の武者頭新織帆太夫敦光を追捕の大將小澤定めり。
件の君命を速傳へ癡者信乃が相貌へ和殿よく認めつらん又その武藝剽技へ
和殿のよく知る所へかまひ容易捕物ありとてちうて成りて征せん。智をりて
その首級捕て進せらる。駿馬の骨を買ふ小勝九日暮るとも通霄路次を急ぐへ一遅くして罪を
ゆるぎと厳又旋へ帆太夫けりて異議小及む俄頃小行装を整へる日へ
西山小傾く比鞍兵二十餘名を拘り。澁我の城下をあらまのちと板東河原の下流へ
添へる葛飾のふふ赴死す。不題下総國葛飾郡行徳より入江橋の梁柱を
古那屋丈五兵衛とのりのあやまり。渠へこの土地小ゆき居停主人なり。妻を
一昨歳対ちりて子ども二人あり。家子の名を小文吾とのり今茲ハ既小九歳
あり。その身長ハ五尺九寸。穴堅く骨逞く骨逞く骨逞く。背力ハ百人小も敵とく。器量ハ絶く

市人小似ま性より武藝を好む。総角の比より親小隠し友小離れ師小就て
技を磨く程小劔術巻法相撲の手まが目得むとのりあり。その次ハ女子小
十九歳小ありぬその名を沼菡と名せり。あま年二ハの春の比鄰郷なる市
川の舟長山林房八郎とのり壯伎小帰死す。その年の尾小や。その男兒を産り
けり。その大ハと名つけり。今茲ハ四才あり。さても這丈五兵衛ハ貨殖の
吏小疎けむ。その家素より富小ありぬ。足るを知らむや。衣食の慾
寡く暇あるをりへ入江小立く釣るをのり樂ありとあり。時小文明
十年六月廿一日。この濱邊ゆ牛頭天王をうり祭る。あやま日ハ江山に没す
てり。里人浦人うち雜り。船小神輿を乗てまゐり。濱邊澳邊を漕廻りて
吹鼓舞踏をてり。疫鬼を禳へ或ハ海の幸を祈り。或ハ塩濱の敏昌を禱す
と。土地の恒例ありけり。戸毎小酒を置く。遊樂ハ暇死日あられた丈五兵衛を

さふまぢらゆも耽らむ客店のつらみあまふ日間へ特小徒然に祭祀へ曠昏より
 されば晝寐し候人も益し霎時ありとも樂んとも釣竿を推り入り江に
 立出り蘆を折布死坐を白く餌を串釣をかりせりとも時へ下晡小近つたり
 虚潮の最中あまが小沙魚ひらの獲もなれど好む夏とく立もぬるむ夏を
 忘る浦風小蘆葉戦れど夕陽の影を奈し水や天多走帆小沙鳥の飛く
 江山の雲入る江小臨石小坐まると死萬事只無心なり竿を揚論と無々
 と死二公ぬも換ると古人のひん宜るるか一波動なく萬波皆後ひ細
 鱗踊る巨魚あるを知る樂いも央あまむとこんまがあや死放舟潮引れ波小
 揺る河原より流まよりの水濤木小堰まき招きもあまこの岸小著をいれ
 船中小西個の武士あり此彼倒まき死せらる如くかろのをあら置べ土地の
 煩勞まぶるととび竿をとり直し衝流さんとも熟る小倒まき一個の

武士の赤褐色麻衣小縹色多麻袴の下折揚と膺を頭し頭髪を乱し
 歯を切り左の肘と右の股は肩より浅瘡二個所あり又倒まき一個の武士を
 細鱗の著龍勒肚まき平金の篠籠手小亀甲入る脚指まき久きを切
 列衣まき毛も左の肩尖は浅瘡一個所肩より月額の亦長く伸と鬚結お
 離し鬚の毛の素まき顔小かまき右の頬尖小痣あり形牡丹の花小似る
 是るん豫と認るその入あまむととび竿うちも措きて怪死縛乃為
 体小うち騒ぐ宵を鎮めり江水小引くその纜小釣鉤をうち掛りかまき
 下は引まき汀渚の石小繫留め躬くその船に乗程まき又これ彼成
 つくとも情想像る小氣抱ひ絶る如くまきとも平く死まふ死深瘡
 あまが船も人と戦り西人共は破倒まき杖まき此彼戦り齊月一
 倒まきめる飲呼活まき縁故と知るやわえまき頬小痣あり

人を抱れ起し。声高き小呼りて、えん、えん、と、呼吸復た困
果と又臥さめ、軀く宿所へ走り、薬を取らば、やとくと、と、死せり。
素肌より、倒れ、武士の腋腹を、ささぐり、小踢とけ、死活の法、や、稱ひ、ん。
忽ち、云と、声さ、身を起し、四下と見、えり、抑あ、何國の浦ぞ、和殿、亦
は何人ぞ、と、問、ま、て、駈馬、く、丈五兵衛、へ、小膝を、突、く。顔、も、成、り、あり、て、呼
活、す。その人、い、さ、も、あ、く、識、ら、ぬ、あ、ん、が、生、と、信、欽、あ、ん、下、総、替、師、さ、う。行、徳、の
入、江、あり。某、ち、里、の、旅、店、丈、五、兵、衛、と、呼、り、め、この、蘆、原、小、釣、さ、折、この、船、の
流、を、寄、り、あ、の、頬、尖、は、痣、あ、り、人、も、辭、我、の、御、所、さ、う、走、卒、大、詞、見、兵、衛、め、
の、一、子、見、八、信、道、あ、る、ま、と、豫、々、認、ま、り、う、わ、れ、ば、う、ち、も、措、き、を、引、よ、せ。
扱、さ、ま、く、小、勲、程、め、ら、ま、あ、ん、が、生、あ、り、同、藩、中、の、朋、輩、さ、う、欽、船、小
倒、と、ま、ら、ま、ど、流、と、ま、あ、る、故、を、あ、め、その、顛、末、を、い、ふ、さ、や、と、問、へ、

えん、えん、と、嘆、息、し、後、難、を、憚、り、苟、も、偽、飾、し、と、欲、ま、り、武、士、さ、る、め、本、意、あ、ら、ま、
い、や、ち、又、の、實、を、告、ん、と、い、ひ、武、藏、の、江、戸、め、ち、り、大、塚、村、小、由、緒、あ、り、郷、士、大、塚
信、乃、成、孝、と、い、ひ、の、之、祖、父、匠、作、之、成、成、氏、朝、臣、の、兄、と、い、せ、春、王、安、王、兩、公
達、小、傳、と、ま、り、結、城、も、く、戦、歿、さ、り、父、大、塚、番、作、へ、深、瘡、小、り、り、て、行、步
か、ら、い、む、廢、人、と、り、り、一、舊、領、大、塚、村、小、退、隱、し、齡、四、五、十、歳、ま、り、文、明、二、年、小
才、や、り、ぬ、そ、の、と、れ、吾、侪、と、十、一、歳、腹、さ、り、伯、母、と、ま、の、家、を、あ、り、小、年、を、經、く、
此、度、辭、我、へ、赴、り、親、の、迷、言、を、ま、り、彼、公、達、の、あ、ん、像、見、ち、り、村、兩、の、名、刀、を、
祖、父、匠、作、と、り、相、傳、し、吾、侪、と、く、三、世、及、べ、り、の、時、到、り、辭、我、殿、へ、進、せ、よ、
と、い、ひ、親、の、志、を、い、ひ、嗣、人、と、い、ひ、り、年、來、守、り、て、腰、よ、ま、り、さ、び、か、り、な、く、時、を、
ぬ、く、つ、ま、を、傳、し、辭、我、へ、齋、せ、り、小、山、堂、と、い、ふ、ん、や、件、の、宝、刀、へ、人、の、為、小、抜、か、え、れ、然
見、え、る、日、小、知、る、め、ら、と、成、訴、る、よ、い、と、あ、り、敵、と、さ、り、の、間、諜、者、欽、と、疑、ま、り、
十四 ○山青堂藏

薄命虚実も糾きく狐疑あり横堀史が下知小後不當坐の力士
 數十人生拘んとくむら立ちり。これ阿容こと成束縛を受獄舎小敷き
 無質の罪小命を損さぶ。この為むちの恥るる父祖の名をくもくべと
 多ハ危窮を脱えん為小巳とをひき血戦く。廣庭小走出檐より檐小待ひつ
 と高丸屋の棟小登り且息吹吹く程この大飼見八とやん和殿小よりて
 その名を知りぬ只ひとり追登り時程おど挑戦ふ。大刀竟折れか
 引組接あみ程一齊一足を踏に。組る儘小外面る。大河の岸小縁死
 舟中小落れれと。その後をさむ人も我も息絶と流さす。小
 舟を今さ。おど落れつと。小の纜ハ張り潮のまわ流されん
 不思議といふ是のまを初戦のうと。なへもむつさ。今見八面部
 の痣の牡丹の花小似る。成日ま。そは款と。ひ合まるとあり。この故郷ある

大塚小糠助と噂さる。いとも貧乏百姓ありけり。この父おまそかり。時間ちろく
 住のあま。左右よつけ疎まぶ。父あくなま。後ハ。日。孤小る。一。代
 憐心大。ね。ま。これ。も。亦。誠。り。と。文。ら。は。と。い。ふ。け。か。く。件。の。糠。助。ハ
 去歳の七月某の日。時疫ふ。ま。ま。く。又。その。折。小。聊。薬。餌。の
 料を贈り。老病貧苦を資する恩を感。義。又。仗。て。や。その。臨。終。よ。い。ふ。と
 あり。その言ハ如此。こ。ま。の。箇。様。こ。と。糠。助。が。安。房。を。追。放。せ。し。ま。此。行。徳
 の入江橋。小。嬰。兒。を。抱。え。つ。身。を。投。ん。と。折。武。家。の。飛。脚。小。推。林。と。れ
 その論。小。より。乞。ふ。小。仕。小。二。歳。の。一。子。を。その。人。小。贈。り。る。夏。の。越。を。説
 示。當時。件。の。武。家。の。飛。脚。ハ。成。氏。朝。臣。の。御。内。人。と。な。り。の。ま。く。名。字。を。問。せ
 糠。助。も。亦。名。告。ぎ。ま。と。そ。が。ま。小。別。と。と。ぞ。か。ま。親。子。再。会。の。よ。の。な。り。小
 右。も。糠。助。子。の。乳。名。を。吉。吉。と。名。つ。け。る。そ。の。生。れ。あ。り。と。右。の。類。尖。小

疾あり。牡丹の花小似。うらうら。今この大飼見ハ。面部の痣もその形。これ彼
 符節を合さる。如。只。是の。ま。る。く。糠助。が。子。を。養。ひ。と。ま。す。件。の。形。脚。の。君。命。を
 稟。なり。安。房。の。里。見。へ。赴。け。り。か。ら。ま。ら。れ。私。は。稚。兒。を。携。う。と。この。う。ら。ぬ。定。宿
 あり。家。の。小。相。譚。と。見。其。知。の。預。置。を。再。と。迎。と。る。と。の。り。わ。る。の。あ。り。と。宿
 和。殿。の。地。の。客。店。ま。く。この。見。八。を。豫。て。し。り。認。ま。り。と。の。り。の。あ。り。亦。その。う。ら。ぬ。び
 この。地。を。不。證。小。ま。だ。た。る。の。あ。り。と。の。り。人。ま。ま。と。誰。う。ま。ら。れ。と。ま。祖。父。の。鎌。倉。の。持。氏
 朝。臣。の。舊。臣。ま。ら。れ。彼。糠。助。の。ま。ま。の。う。ら。ぬ。を。よく。知。る。の。あ。り。と。ま。吾。倚。り。時
 到。り。と。辭。我。殿。へ。参。り。と。あ。り。と。の。り。子。へ。今。も。彼。御。内。の。あ。り。や。形。や。を。訊。き。と。ま。と。い
 送。せ。り。人。の。恩。愛。情。義。小。ま。ま。と。亦。感。悟。ま。ら。れ。と。あ。り。と。の。り。外。の。う。ら。ぬ。の。あ。り。と。ま。此。度
 彼。知。へ。赴。く。小。親。と。友。の。送。言。を。果。え。と。の。り。と。の。り。小。持。泰。の。室。乃。ハ。仇。と。を
 ま。ま。玉。を。抱。く。罪。ま。く。咎。あり。と。ま。と。ま。ま。と。小。親。愛。を。い。つ。せ。ん。ま。ま。と。人。の。あ。り。と。ま。と。い

おのづこ組敷せ。このまのま生と。あ人死せり。親の為。あハ不孝。あま。と。友。の。約。成
 負。く。小。似。と。命。運。の。程。ま。ら。れ。と。の。り。と。の。り。か。の。如。く。と。の。り。庭。へ。牽。ぶ。引。ま。ら。れ。と。ま。と。い
 小。も。土。地。の。法。小。任。と。行。ま。ら。れ。と。の。り。賞。期。の。言。語。來。る。境。ぬ。勇。士。の。面。魂。小。文。兵。衛。ハ
 感。嘆。ま。ら。れ。と。の。り。小。膝。を。碾。と。拍。呼。お。ん。乃。ハ。是。孝。義。の。人。あり。と。の。り。訟。の。庭。へ。牽。ぶ。と。ま
 土。地。の。法。小。行。ま。ら。れ。と。の。り。目。今。お。ん。乃。が。物。語。ハ。こ。ま。も。吻。合。ま。ら。れ。と。の。り。糠。助。男。と。中。ま。が
 名。ハ。夢。小。も。ま。ら。れ。と。の。り。と。の。り。と。の。り。辭。我。の。御。所。ま。ら。れ。と。の。り。走。卒。彼。犬。飼。見。兵。衛。ぬ。ハ。里
 見。殿。へ。お。ん。使。小。往。返。毎。小。が。家。を。定。宿。小。せ。ま。ら。れ。と。の。り。今。傳。れ。ハ。十。七。八。年。ま。ら。れ。と。の。り。十。九
 年。の。昔。小。ま。ら。れ。と。の。り。実。事。件。の。見。兵。衛。ぬ。ハ。あ。れ。と。の。り。多。く。彼。知。の。橋。の。ほ。り。と。の。り。必。く
 餓。疲。ま。ら。れ。と。の。り。行。人。が。稚。兒。を。抱。え。り。と。の。り。才。を。投。ん。と。せ。り。折。小。渡。り。あり。と。の。り。推。禁。め。親
 小。此。二。の。路。銀。を。取。り。と。の。り。子。を。購。得。と。り。と。の。り。又。こ。が。宿。呀。へ。立。戻。り。と。の。り。子。を
 預。置。ま。ら。れ。と。の。り。と。の。り。家。子。小。文。吾。が。ま。ら。れ。と。の。り。次。の。年。小。ま。ら。れ。と。の。り。妻。の。乳。の。受。り

くはば 領家一甲非丈ありと彼見もよく肥ふ。かこ二月あまると歴く見兵衛
ぬ又へ牙と伴の児を迎より少れはより懇切なめよと年始小状とより
まよひの音耗疎くも子とも安否代訊向くと野の年と経る程小一昨歳
の秋の比見兵衛ぬの里見殿へおん使をうけ多う。そのかゝるふその子共侶
こそ家小止宿らむ扱ひひける。こも既小老とまがらぐ役義と勤よりりて
拙郎見へ小見習せむと必ひ。横堀殿は請やうと後者ぬとおとされり
實ハ丈夫よりうを和殿夫婦ぬんせんぬも渠総角の比より志てたるるに
武藝を好めいとを争より二階松山城ぬの教を受て弱輩もが抜卒
の高弟と稱せと就中巻は法捕物へは藩中を双の力士といひるその虚名知
らぬも此ハ得るもあふ。この子を養ひたり一時内室の乳をこけと字育
まて恩義ありかき子息小文吾と俗小の乳兄弟ぬとこの年歳も同

いづべし且小文吾は武藝を好む軟弱骨の星にげらる。脊力もさそと推さる
すぬもさるん此と彼と好む所も相似る。彼小兄をくこも不辨る。さうめと心
とげん為小文吾と見八と兄弟の義を結せるが久後やも馬をかん和殿の
心いふとと問き某一談小及びむ妻小告子小吾も。軀もその意ぬ任へ修
聊酒宴の席を閑て勸盃の義をとりゆふ見八郎ハ長禄三年十月下旬小生
と。護符付書表小このまの正し書札あやまといふか子小文吾ハあが年の
土月小生れふ一个月の遅速もども長少の順分明かこその詰朝犬飼親子ハ
辭我へとく還る餘波を惜まぬと。か妻のり程も持病の瘡と積く。ゆと
果敢く世を逝り見兵衛ぬを去歳の夏病こづらぬと一旬あまるとこれも黄
泉の客とありぬと風の便小生れり。こも今このあは人のこ子小文吾が義兄弟
あり。こ子あま小文吾ハ善と與。義小進め里の壮俊長と。達るるまで使

とし備この人の情あつたがなり果るがう飛渡す小渠小若くは腰刀の
 許我小措ぬ合ふる刀を嚮小折れり。せめてこの見八が刀を借すく自殺せし
 死する人をも欺ざる誠とあつて端ともあつてさうとく右子とさう伸と見八が腰刀
 挿たる刀を取く抜んとするを文五兵衛推禁めり。趣理するまじかかまでよ
 道を立て義小一向ある人へひきこす。さう可惜に壯伎を死んとのふとく殺さんや且
 この刀を放るへいさくそは情は似てあつて情あつて見八共侶甦生せし和殿を
 勞さしむる。再び勝負を決すた無二の友垣結ぶその時宜小てそのうめあつ
 ちうと術もあつ。これも亦男子に禁らるるさうとくまゝあつ其知退多と振拂ひ刀を是
 里を取為して壯小突立んとする程小死せりと名の見八が忽地岸破と刀を起してつ
 結多犬塚生を切りあつと呼ひつ信乃が利腕引禁らり。さうとんえつ信乃より見
 文五兵衛の故馬呆れ。眼を睜り肘を張る。つらむと幾と喘息の浦風もあつたかきさる。

第三十二回

柵櫓を除く少年號を得たり
 角瓶を試て修験争と解く

當下信乃の貌を改めどひらり。大詞生縛絶けんとの程少甦生と今
 幾條の問答を側小あつ某が自殺の刀を禁らる欬と向べ又文五兵衛も反せし
 胸を擁むる。嚮あつあつ呼活ら抱起し勸す。心盡一の届ぬらち歎死さす
 けるふ醉する人の醒る如。醫師もいさく造作する甦生小とさうも安堵たり。
 心地は何とむらむらと向へ見八うち點頭さうなれり。も理え要時とさうと彼小
 物をあつせしめるゆえそつ小憑り。舊識良友けふこの入江小流とさう。蘆分船の
 中の。齊一面をあらはると不思議といふもあつあり。嗚呼賢さうあ犬塚の
 言の。義と母見くその肺肝を知ればそ卒介と禁めさう。この刀を措多といひ
 取く輕小納め。喃犬塚主古那屋の翁今猛小牙を起せり。さうる体の慌しを牙

思ひにけん嚮小某芳流閣の棟を踏外と落ぬる水際の舟小受れと云ひ
後日と申すもあま死しこの江小流を寄しを告るが如く人ありてこの枕邊よりと云ひ
親の名と云ふ名を喚ぶふち驚かす稍人ありつれりと覺もは果て夢小
似たり心と鎮めりそのゆかりを詳しやげ大塚女の孝心義胆古那屋の
公が誠諫辯論彼幾條の問答ありたりて人々の心よりこの舟小誘れと云ひ
行徳の入江のほとふ年来相識る里老小入出さるる死し復た生れんと
知るふ人の誠を身よりこれ感涙坐す胸は満ちて端を扱ひの恥し癖の腰と
折んたり言果るまで使てんと云ふバそが臥すをかり程小大塚女の道を立
義小仗と自殺と云ふを為体小驚遽と身を起し馴しくも禁めり云ふわれ
ども大塚女和殿小よき某が実父のうを知る故小今君命を外小云ふ私を
厚き鳥詩のめと云ふひひと云ふと詳し告る某が親見兵衛小微禄卑

職ののちと云ふも生平小陰徳を宗と偽飾を好まざればや某と云ひ
をのちと云ふも養ふと取乳を考む字育れその恩小實の親小異るべくもわが
父且てこの東西を知る比り。螟蛉児ありて苟且小も隠さざる時二親對
坐す。吾侪を膝のほとり小初吾侪を親ひとり。縉の緘を説小。おとが
実父の像見といふ今も腰小著させ護付囊のこぞ。内小物と云ひ
あり。脐帯を巻こ紙の端小書記あり。長禄三年十月廿日誕生と安房國の
住民糠助が子玄吉が産毛脐帯並云云と識たり。女筆と云ふ母の母也
云々也。おとが実父小當初安房を追放せられ迷出るのちればその往方定
ちとて実母小當年カありと云ふ。住のりれ実の父母ハかまて小薄命あるの
ぞと云ふ親の為又弟の為小成長後と云ふ勉て及れ心まのちと云ふ。教訓叮嚀と
けと云ふ種と云ふの悲しと恥し形と云ふ。涙を包む梓の袖顔小當れけと云ふ。

廣^{ひろ}く^{せま}く^ち心^{こころ}地^ちく^ち。中^{なかつ}こ^もま^りた^り對^{たい}せ^り。是^{こゝろ}に^ある^まし^きを^將大^{たい}し^はい。
 二^{ふた}親^{おや}の^を疎^それ^はせ^ぎ名^なを^揚家^かを^與こ^もる^養育^{よく}の^恩か^たま^ふり^たる^く實^{じつ}父^{ちち}乃^の
 恥^ちを^雪め^ぐ。と^思ひ^けら^れば^も亦^{また}學^{まな}ぶ^武藝^ぎの^社友^{とも}は^後作^しと^習ふ^じつ。
 螢^螢を^取る^夏の^夜も^雪を^圍ぬ^る冬^の日^も睡^ねを^破す^創を^忍ぶ^口は^親の^乃の^この^この^こ
 以^もて^せぎ^さる^るの^{あり}。斯^か行^ゆの^年を^經く^ま歳^{とし}の^春夏^げ三^{さん}月^{げつ}が^間小^{せう}二^に親^{おや}を^喪ひ^ぬ。
 小^こ人^{ひと}の^真愛^まる^る親^{おや}を^喪ひ^ぬ哀^{あは}れ^しも^又あ^はれ^めあ^はれ^ぬわ^たし^の哀^{あは}れ^の涙^{なみだ}は^乾か^ぬも
 待^{まち}ぬ^日數^{かず}の^立と^てか^く已^{いと}も^果て^召出^しさ^る父^{ちち}の^職を^嗣ぐ^る小^こ又^{また}こ^の春^{はる}の^役を
 轉^まと^獄舎^{じやう}長^{ちやう}小^{せう}ま^りと^まり^とり。そ^のと^れ某^{たれ}か^の女^め。こ^の亡^な父^{ちち}の^慈悲^ひを^放生^{しょう}す^のこ
 る^とと^無血^{けつ}の^殺生^{ころ}せ^らる^るの^{あり}職^{しやく}役^{やく}の^とヨ^スス^る小^この^子と^獄舎^{じやう}長^{ちやう}を
 小^この^憂へ^ば憂^{うれ}へ^ば憂^{うれ}へ^ば且^{かつ}執^{しやく}權^{けん}横^{わう}堀^{くわ}史^し在^{ざい}村^{むら}ハ^權を^弄び^威を^逞し^と人^{ひと}を^虐す^と
 大^{たい}く^ちら^ば罪^{つみ}あ^らう^と獄^{じやく}舎^{じやう}小^{せう}ま^りと^まり^と命^{いのち}を^隕す^のヨ^スス^る。あ^らう^とを^おの^れ

ら^ど如^{ごと}く^ちち^りり^りて^そ戒^{かい}救^{きう}め^とか^るあ^らう^と縦^{じやく}職^{しやく}役^{やく}を^まり^と罪^{つみ}を^犯す^ひて
 呵^か責^{せき}の^答を^執んと^刃心^{しん}び^くら^れと^あら^うん^と父^{ちち}も^職卑^ひく。譜^ふ第^{だい}恩^{おん}願^{がん}の^御家^け臣^{しん}
 ち^ちま^り今^{いま}と^轉役^{やく}の^義を^辞し^{やう}さん^ふ聽^きさ^とも^身退^ひく^とも^甚し^き
 不^ふ忠^{ちゆう}小^{せう}あ^らう^と又^{また}甚^しし^不義^ぎあ^らう^と。養^{やう}父^ふ母^ぼお^まそ^かり^日小^{せう}お^のが^隨う^る旅^{りょ}行^{ぎやう}
 一^{いつ}。實^{じつ}父^{ちち}の^所在^{ざい}を^索る^不義^ぎ養^{やう}父^ふ母^ぼ既^{すで}小^{せう}世^{せい}を^逝る^実の^親の^存亡^{じゆう}生^{せい}死^しと
 ころ^小の^不考^{こう}あ^らう^と糧^{りやう}せ^らる^小幸^{さい}あ^らう^と。と^尋思^{しん}ん^恥二^に通^{つう}の^願状^{げんじやう}を
 こ^こま^り獄^{じやく}舎^{じやう}長^{ちやう}を^辞し^{やう}せ^らる^横堀^{くわ}史^し怒^ど拒^{きやう}す^役も^免さ^と身^みの^暇も
 賜^{たま}ひ^む上^{じやう}を^蔑ふ^罪車^{しや}と^忽地^ち獄^{じやく}舎^{じやう}小^{せう}移^{うつ}り^て無^む慮^{りょ}百^{ひやく}日^{じつ}あ^らう^とを^經り
 かる^とれ^小も^彼像^{ざう}見^{けん}る^護符^{ごふ}囊^{ふくろ}を^親と^いふ^人小^{せう}知^ちさ^と且^{かつ}も^口に^是の^成の^と
 小^{せう}の^首を^刎る^とも^且と^吞る^と肚^{はら}に^龍死^しんと^思ひ^決め^し小^{せう}
 郷^{きやう}小^{せう}猛^{まう}罪^{つみ}を^免さ^と癖^{くせき}者^{しや}信^{しん}乃^のを^搦と^異る^嚴命^{げんめい}あ^らう^とを^經り^横堀^{くわ}史^し

猜とまはるに在村が奸智の所為歟彼信乃がも成借りて。こまを殺さんと謀り
 けめ然とく逃る道あり。搦捕るとも執りとも只速小勝負を決して不測の功を
 立る小至る恩賞めし身の暇を乞受退去んと思ひのこまが為め実の親の
 恩人ちを知りて頻に挑戦ひおきり。わのまふこまを殺し和君を搦捕る
 ちか込後悔脛を啞ん嗚呼危れかも危かり。親と親との精霊の擁護神明
 の冥助もあはれそ組る俣小船の中お落る和君へ危急を脱れ某も亦折を
 ぬく。稍身退くのとちるま落る時の疼痛もあはれ送命恙なくこま素懐を遂
 るに宜しきまら幸なり。郷ゆめ只その大う成側仕へる親のる。まは精細小安
 まほ。大塚ぬと上坐お進めく壁を席もあはれ船中あまがまふく小外へ沖さぬ言
 の葉の戦とちる浦風ふいと涼し壯夫の心の底へ見れち。信乃は只管感嘆し
 ち傾け頭を搦連れ大飼生志あるめへ推もかすあまを和殿の実父の行状の

一朝小説盡せむとむその性よる老實なる木訥小仁小近て絶て悪意はる
 老人ち終馬の去歳の七月廿二日の曉天小往生の觀念いと愛ま。享年六十
 一歳とちゆえ。長祿四年の比うと。安房の洲崎を流浪し。武藏の大塚ちる
 土民初七とののめ。後家の入夫ちるより。あ小十又八年を送る。こま
 この婦ちるものわをそ。一年先ちる。一昨歳の秋ちる。親族もなく。
 家財ちるむか。あまをどめと。彼人その臨終小竊は吾侪小託せ。只是
 和殿のの。往時安房の洲崎ちる。和殿がせれ。七夜の日小糠助老人へ細
 せ。鯛をちる。庖丁ちる。とちる魚の腹小玉あり。文字のぶらぬ。えちる。
 取。産婦小讀せ。小こまをこま。訓む信の字ちる。是れ。是れ。妻の
 筆の。その誕生の年月と乳名と感得の玉の。又紙の端小書つ。せ。せ。
 産毛胎帯の。共。護符裏小納め。ちる。玄吉君と父小後ひ。あ。ま。籬倉

一。辨我中を程りけり。護符囊を失ひて。今も不果がて。小あをん。それを證し。
 一。紛るゆふと。つらと。その玉今もありや。と問。見八の邊。ゆは。膚小著る。
 一。囊の紐を解。ゆら。ち披死某。竟小縁さく。和君小名告あ。ゆら。せ。父の
 一。入を斯ま。巨細小。ゆら。ゆら。や月来。嶺舎小。撃れても。護符囊。ゆら。を放
 一。さ。ゆら。その玉を失ふ。死塵さ。ま。ゆら。ゆら。と。回答。ゆら。ゆら。ゆら。
 一。玉をさ。示せば。信乃。ゆら。ゆら。ゆら。ゆら。階玉。夜光。ゆら。認ら。ゆら。十五城。ゆら。換ゆ。
 一。宝ゆ。ゆら。稱ま。ゆら。見八。懐舊。ゆら。堪。ゆら。目皮。ゆら。ゆら。物数。ゆら。ゆら。ゆら。
 一。ゆら。某。養父。の名乗。ゆら。隆道。と。唱。ゆら。ゆら。又。某。名。ゆら。信。ゆら。ゆら。ゆら。
 一。道。ゆら。則。養父。の。隻。字。信。ゆら。則。この玉の文字。ゆら。ゆら。ゆら。ゆら。ゆら。
 一。ゆら。今。ゆら。玉の。出。ゆら。ゆら。ゆら。奇。ゆら。ゆら。思。入。大塚。ゆら。和君。の。賜。ゆら。ゆら。
 一。ゆら。信。ゆら。ゆら。ゆら。ゆら。額。ゆら。ゆら。和。殿。の。ゆら。ゆら。ゆら。ゆら。ゆら。

一。過。かの。賞。美。へ。當。り。ゆら。ゆら。この玉を。ゆら。ゆら。親。を。ゆら。ゆら。ゆら。ゆら。ゆら。
 一。あり。某。も。この玉。小。毫。釐。違。ゆら。ゆら。藏。ゆら。ゆら。その玉。ゆら。孝。の。字。あり。原。是。母。感。得。ゆら。
 一。失。ゆら。ゆら。ゆら。ゆら。ゆら。ゆら。ゆら。ゆら。ゆら。ゆら。ゆら。ゆら。ゆら。ゆら。
 一。と。名。ゆら。ゆら。家。狗。の。痕。口。ゆら。ゆら。件。の。玉。ゆら。ゆら。ゆら。ゆら。ゆら。ゆら。ゆら。
 一。あ。ゆら。ゆら。玉。を。獲。ゆら。ゆら。比。忽。然。ゆら。ゆら。某。が。左。の。腕。小。痣。ゆら。ゆら。ゆら。
 一。余。後。八。年。を。経。ゆら。ゆら。糠。助。老。人。が。言。ゆら。ゆら。魚。腹。を。獲。ゆら。ゆら。王。の。ゆら。和。殿。の。痣。ゆら。ゆら。
 一。詳。ゆら。説。示。ゆら。ゆら。竊。小。ゆら。ゆら。王。と。又。ゆら。ゆら。痣。小。相。似。ゆら。ゆら。これ。宿。業。の。致。を。所。致。ゆら。
 一。友。大。川。莊。助。も。感。得。の。玉。ゆら。ゆら。ゆら。ゆら。義。の。字。あり。ゆら。ゆら。義。任。と。名。ゆら。
 一。ゆら。假。小。字。を。額。藏。と。ゆら。渠。ハ。身。柱。の。屋。ゆら。ゆら。右。の。胛。の。下。ま。ゆら。痣。あり。ゆら。ゆら。形。相
 一。同。ゆら。ゆら。糠。助。老。人。が。子。も。ゆら。ゆら。異。姓。の。兄。弟。あり。ゆら。ゆら。ゆら。ゆら。ゆら。ゆら。
 一。ゆら。ゆら。心。地。ゆら。ゆら。今。その。人。と。玉。を。ゆら。ゆら。ゆら。ゆら。過。世。あり。ゆら。ゆら。知。れ。ゆら。ゆら。王。を。ゆら。ゆら。

立地ふ水解せんといひつ。且見八小渠が玉を返し。項は掛字懷裏の笏解披死て
 玉を視せ左の肩をひ祖たぐ腕の痣をさへ入せし見八つくとその玉は刃を
 痣はたつ奇也妙也と唱歎し信乃と面を合はるとの遅かりけるを憾るの意小
 ちの玉を取る囊小納め項小掛共侶小跪天地を拜し誓言を立て彼桃園
 の義と結びぬ文武兵衛ハ初ら默然とみ又たて此彼の物語をつくとて
 今傷より二顆の玉をさしすまき驚嘆し二人小ち對ひかひハ鴻濤小解これ
 ともこそ子小文吾ハいぬ比見八殿と兄弟の約をあしる越ハ既小ちや上小りりさ
 犬塚殿の傭ハあまも只その爹見兵衛ハの懇小任せしつと今更おのハ
 小文吾ハ犬塚殿も過世あつ然らばこの盟約の席の下小與えさあらん渠も
 一顆の玉どのりその二顆の玉小似ら彼が玉小見れら文字の異小れ孝悌
 の悌の字ありさあゆり市人小あつてもあま各告さ渠みか撰定めて悌順

と名つたり玉の文字を取る事件の玉の出知と諦さ聊又大飼生の魚腹の玉と相似
 ころ小文吾ハ尚襪襪をりける時食初の祝小赤豆飯を造らる。鱈物蔬物羹
 鱈形の如く安排する折敷を嬰兒小推さる。飯粒を哺舐さると高盆の碗中へ
 衝突し箸小かき滾と落し鞭物あり。取らる事件の玉原その碗さる飯の中
 あり死物ありむしく。牛丸不思議のる飲且その玉の美れ細小みと愛さる求て
 獲らる宝あり。軀て小文吾が護符囊小納る。渠今も不秘藏せり。加旃小文
 吾ハ市人の子小似ける。総角の比より親小隠しく武藝を好む力技の意せり
 かるひ年八むりの比よりけん十五歳ある童と相撲をとりて敵小をいりて投れ
 とも果ハ巴も尻居小にり。あつる甚石小醫を撰せし大丸ある痣いで来り。年を
 経る隨消失せし痣ハ生憎小濃る。形牡丹の花小似たり。あつるともこれらのつハ
 奇異小涉る。然りて人小若見ハともこのる。あは知らざるをさめり。今中われ小文

吾小あめく件の王と癒をさふうと真実をて密語へ西人の頼小藤の進むをばえま
 見へ信乃をさふうと某のいぬる年彼小文吾小對面しその人柄と知るめくさ
 過世わえんとつやくさひひさりえちと藏をねども額藏の莊助と共ふまへく四人同因
 同果の過世あけんよふ憑くゆといふ信乃うまう点頭と微妙く文五兵衛老人令郎ハ
 その勇力の捷さのまふと志も世の人小立勝りころるわん願ふの詳小古あへ同
 れく茫然とち微咲といふさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 したるあが某が素姓をいふ安房半園の主ありけ。神餘長挾々光弘朝臣の近
 習の臣那古七郎由武がやえ當初山下柵左衛門定包が逆謀あり光弘積死
 ちあひと死兄めく七郎ハ金碗八郎孝吉が舊僕杉木朴平洲崎壱坊三云と戦て
 矢庭小壱坊三を砍倒せんとその刃も遂小深瘡を負く杉平小移れりその時
 某十八歳弱冠ありまご仕へ且多病をけけ定包を撃て死志願もあを

母の舊里ある成りこの行徳は落甲の後の客店とさふ小及びく家跡を古那屋と
 唱初ハ那古の苗字を轉倒せり之ハ市人さあうかど父祖ハ武弁の家臣よりと
 拙郎小文吾ハ自然と武藝を嗜むめ欽渠身長ハ五尺九寸。旅力ハ限りハいつむさ
 ちあひと子さううくも知さず裏小この里小拙樵大太といふ悪棍ありその面顔ハ落
 路の舞乃如く足ハ伊勢蝦の殻の如くその旅力飽まが剛く心ハ悍く曲めを
 酒と賭博を好まふ年来浦里を横行し。ちあひと家毎小或ハ錢を借り或ハ
 衣を借り返さまう。聊も債を促さめのみさ理不盡小打倒し錢を取せ
 ざまババサもさ癖者ありけまも領主千葉殿の弓箭衰へて政支公寺閑多れ
 訴糾まぐもあまど人皆毒蛇の如く怕とく彼奴が怒小觸れとの念とく避て運
 程小あると大太ハ醉狂のあまり里の真中小一條の柵樵索を引渡。索は紙牌を
 結さみくこの所を過ると欲さるめハ錢百文を出さし。倘その錢を齎せむ推て



拉 <small>ひき</small>	犬 <small>いぬ</small>	任 <small>まか</small>	小 <small>こ</small>
ぐ	太 <small>お</small>	太 <small>お</small>	文 <small>ぶん</small>
	成	俠 <small>ぎやく</small>	吾 <small>われ</small>

ひきものの犬太



小文吾

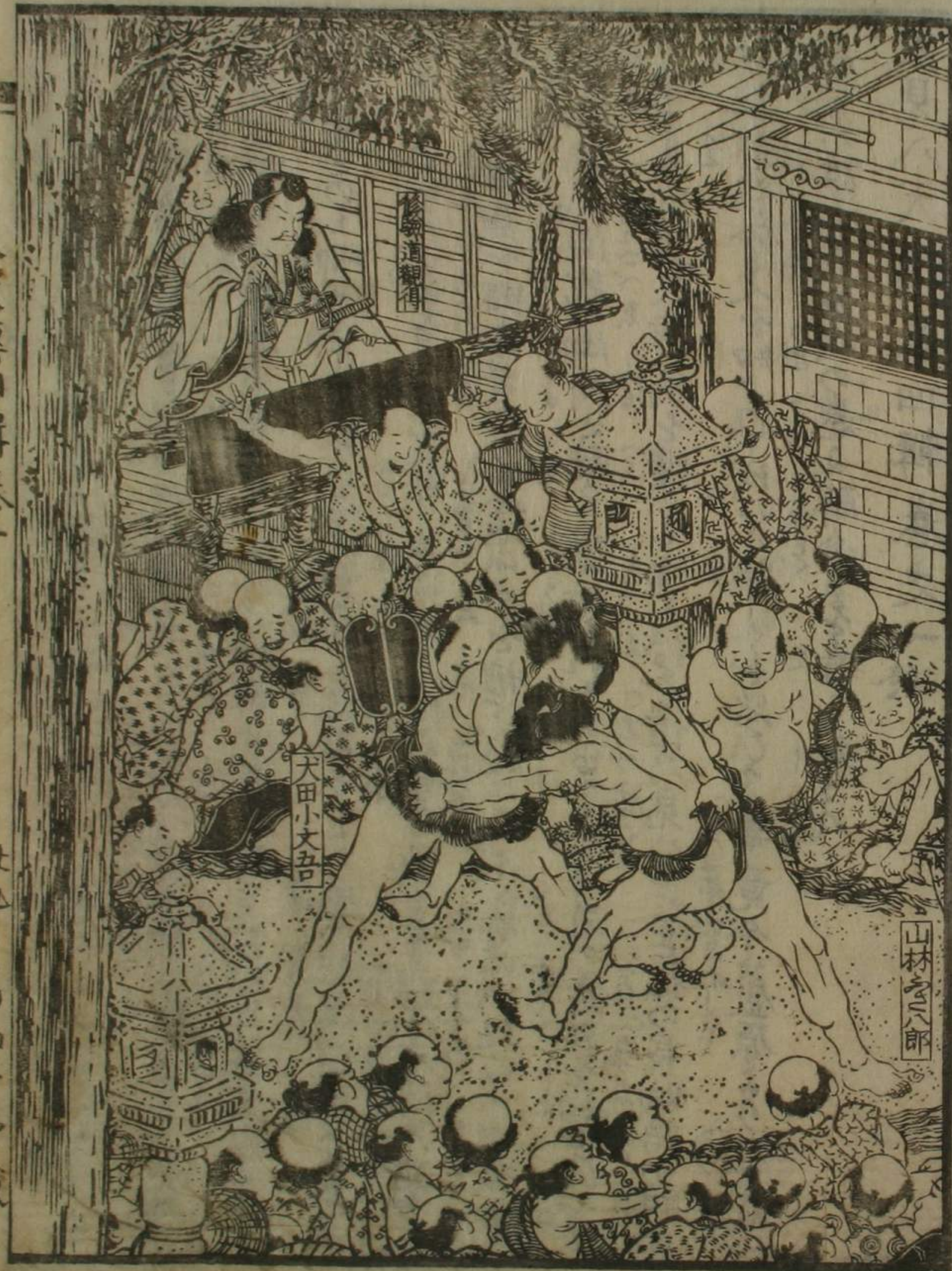
過るぬのふ大太が首をぬぎまじり。大太の死も恨ありと筆太の書つてその
為にそのやちまも石小尻をうけたり。是れ人愈途を去あはれ。殆難義小及
ひふけり。その年小文吾十六歳竊ふ大太が悪行を憤り衆人の為親め隠し
むとまの所は赴けり。件の索を引割離し人を通さんとま程小大太と大く
怒哮く衝と身を起し。遮苗め榮螺の如く米成固めく。小文吾が眉の間を
撲んと進むを引外し。足を飛く破と蹴る蹴らるく大太の身を轉し。忽地撞と
倒るを起し。もそむ乗し。かつて中腕を蹴踏まへさ。も小悍死悪棍されども。
骨骨折けく。も足を綱搔き血を吐くと泉の如く。言句もせむ死けり。當下
立聚る里人。小文吾が比類る死働死代ん。且敬罵死且歡びく感嘆の声を
合し。答言し。ける。も彼柳權の大太の當初鎌倉を追放せられ。も里へ来
つるのと同類も。妻子もまけ。ま殺し。もとて出宗へあはれ。是れ世の人の遂小

拙郎小綽號く大田小文吾と喚做り。太の字と田の字と音訓同じ。悪根大太を
蹴殺し。里の患を掃へ。後びのあまも。某の件のるを次の日人。小文吾は。後悔
驚れて拙郎を召つ。血氣の勇と威め。教訓の辞を盡せ。小文吾は。後悔
とて刀を帯るとも。抜けゆ。人と争ふとも。敷ゆ。誓ひ。渠。孝心。あ。欽。行。心。を
改んと。誓ひ。親を。お。ふ。似。さ。か。く。又。死。あ。る。鎌倉。小大。先達。念。玉。修
験。道。觀。得。と。い。ふ。両。個。の。山。伏。あ。り。けり。并。小。我。慢。の。惡。僧。あ。れ。が。武。藝。を。嗜。み。相。撲。を
奴。め。り。先。祖。の。兄。弟。少。く。分。と。る。今。ま。は。ち。う。死。族。あ。る。と。も。年。來。先。達。職。の。呀。得。成
争。つ。果。さ。も。双。方。證。の。文。書。あ。ら。ふ。西。管。領。も。今。更。小。黒。白。を。決。つ。と。和。談。と。初。め。ひ
し。と。ま。の。ま。く。念。玉。觀。得。は。且。く。その。争。ひ。を。輟。く。譚。ま。う。く。いと。も。か。こ。き。壁。言。ま。は。す。
昔。惟。高。惟。仁。同。胞。の。親。王。宝。位。を。争。ひ。の。時。相。撲。の。勝負。を。り。く。その。甲。乙。を。
定。め。ぬ。の。と。ま。の。あ。る。至。尊。も。争。ひ。果。多。の。つ。か。る。例。あ。る。ふ。あ。ま。ま。を。これ。を。御。也。も

八代集日集一 七七

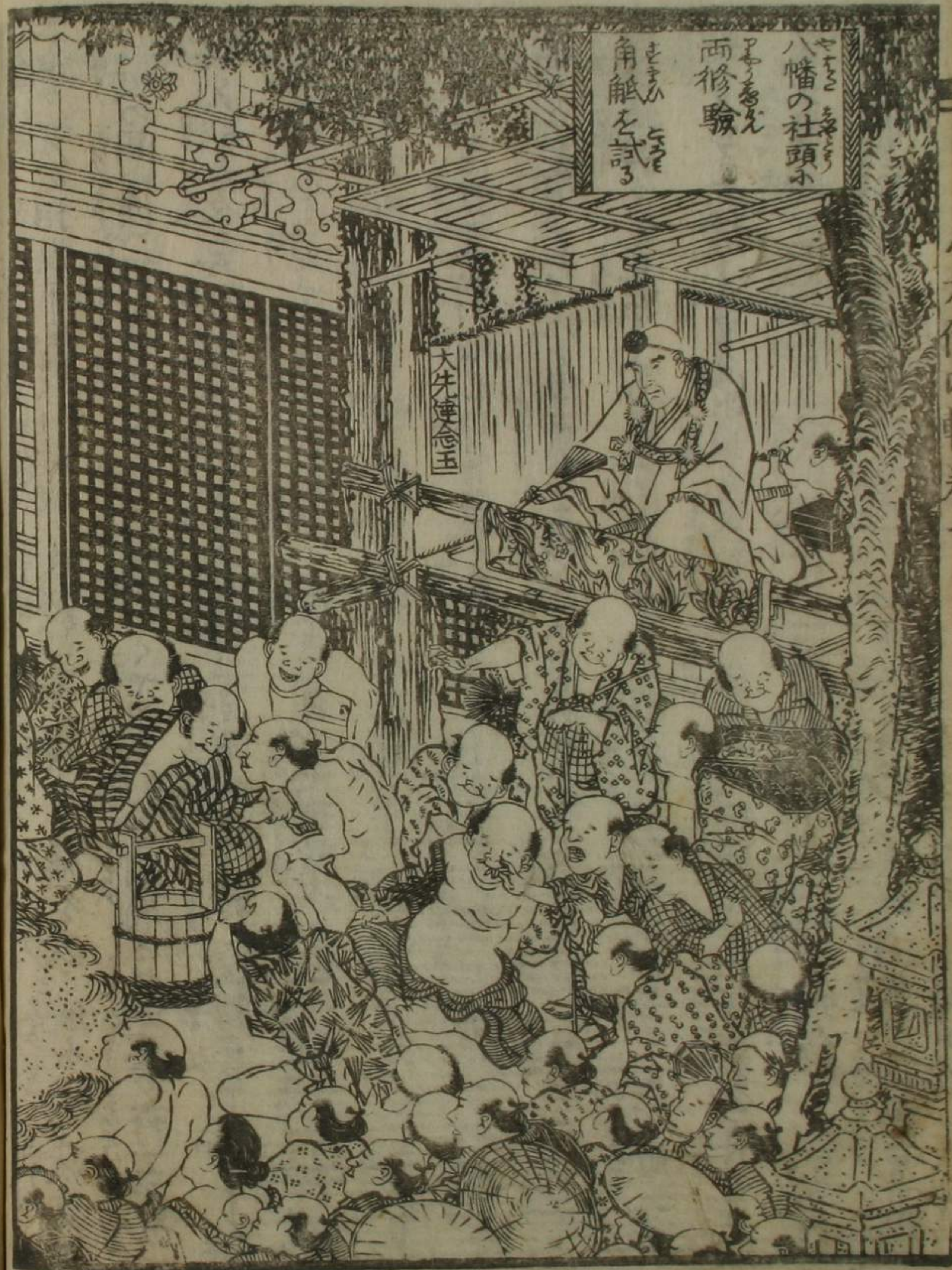
相撲をぬめり。所詮相撲の勝負あり。勝るもの所得を増ん負るもの弟子と
 多し。熟談く込め誓紙を取る。家亦あく彼此名く相撲を暮る。
 さ程の念玉坊の小文五が、を他ゆけん。みづくこの行徳。指牙く渠小相譚の
 観得坊の小文五が、妹夫市川の里入る。山林房八郎が、脊力飽まで人提れ。巻
 法相撲を善くややく。彼知ふゆやく相譚。件の山林房八、今茲廿二歳あり。
 川船數艘を奔く生活とて、渠も亦総角より。巻法相撲を嗜む。既ふその技小
 長。身長五尺八寸。脊力山をも抜く。その名近國不隠。さるその回影の
 優美なる。壮伎の斯いゆい。之礼ある。とも大塚ゆ。とよく似たり。所云他人の猿肖る。べりか
 本月十八日の未明より。八幡の社頭にて。件の相撲ありけり。東西の棧敷を掛りて。念玉観得
 の西修驗後者と共小こ。且或親き彼此の里入も。見せたり。行司の両家より。入つ出る。
 初小文五と房八が。弟子どもの小せり合あり。その小相撲九番果て。第十番山林と

大田が結ひの相撲。且彼西修驗の棧敷。さる親の唾を飲。腕を扼て勝負を
 呼吸の間。俟行司の左右の氣息合。ヤツと引。扇と共。双方存一。さる。
 組別と反。外を技も力も。優さ。半响たり。接の程。小こ。か。
 小文五の左を差。山林の腕を閃りと振。ほけ。足操被んと。さる。背を破。撲
 房八の西三歩。走る。如く。跌宕。俯。ゆ。倒。と。媚。と。め。め。も。勝。負。小
 吐と被る声。要時の鳴も止。り。け。さ。り。小文五と房八と。睦。か。ま。某。さ
 豫。さ。る。あ。ん。と。思。量。て。ま。ぐ。禁。さ。り。け。さ。も。彼。ホ。も。好。む。ま。め。さ。入。り
 懇の推辞。且。怯。り。さ。る。ど。し。ら。ま。ま。ん。と。外。を。敵。の。め。く。竟。小。用。ひ。ど。
 懇。さ。る。い。て。け。り。と。い。ふ。小。喻。と。果。相。撲。打。出。ま。か。如。浦。邊。の。こ。笛。大。鼓。の。音。や。え
 けり。文五兵衛。さる。あ。ん。と。大。止。を。益。の。話。説。小。実。か。入。り。く。西。所。の。疲。勞。も。顧。む。日。の
 暮。さ。る。も。忘。れ。り。彼。俚。樂。牛。頭。天。王。の。神。興。洗。の。供。奉。船。入。こ。の。浦。里。さ。る。祇。園。會。も。例



八幡の社頭小

九九



八幡の社頭小
角觥を試す

大先連念五

ねんみふたのちの
 年六月望の日あれども十四日よき雨ありしが渡りかると延一方の家ゆかまも
 わぬぬ個をみる奴婢もまじりこの祇園會より三日の間身の暇を取らざるがたどく
 土地の習俗もふちのとも存せむ小文吾ハ神興小隸もまじり彼木へ接尻をまよふ
 俟不樂とのぞ唧めりとかうかうか黄昏て近死するも路の程潜ふ便とありぬ
 誘ふといひみくを起し先小進と陸小登とんとまじり程小水際乃蘆を
 搔みみ半身を頭と者あり忽地小声を被く汝もまじり膽の太れこへ十葉家
 の米地をまじり御所と疎らぬ訴られざる出あらん刃の危れを知らばやと
 呼禁もまじり丈五兵衛ハ胸を潰し進め信乃見八もこは彼の長物語小時を
 殺し他小まじり人を知られぬいと悔しむも畢竟今蘆原より猛小呼
 うけか誰そ其も次の巻に解分るを看く知らん

里見八犬傳第四輯卷之一終

に海入るる内

井川

是

院

